

16. 被害地の早期再生手法の開発

シカ食害跡地へのオオバアサガラとアセビの導入試験

亀谷行雄

(目的)

野生獣類による森林被害、特にシカによる食害が顕在化して、被害地の増加が大きな問題になっている。シカ食害地に自生し、食害に強く、食害されても枯損しないオオバアサガラとアセビを活用した被害跡地の効果的な早期緑化方法を見いだす。

(方法)

2003年5月7日に、奥多摩地域のシカ食害跡地において、オオバアサガラの植栽試験並びにアセビの林地への直か挿し試験を行った。試験地の概要は表-1に示した。植栽したオオバアサガラの苗木は、2002年に当試験場のミスト内で播種及び挿し木によって育苗した苗木である。これら植栽木の活着後の生育状況を調べるために2003年11月4日と2004年11月1日に活着・発根した樹木の生存の有無と樹高の測定を行った。また、これらの生育追跡調査を行った場所と同一の林地内には、オオバアサガラの親木があり、2003年時、この周囲に種子が落下して発生した個体は全くなかったが、2004年時には、親木の周囲に種子が落下して発生した個体があったので、2004年11月1日に、図-1のとおり、親木を中心にして半径7m(水平距離)の円内に生育するオオバアサガラの樹高を測定した。

(結果)

2003年5月7日に導入したオオバアサガラとアセビの2004年11月1日の生存率と平均樹高は表-2のとおりである。2003年時にオオバアサガラは19本が活着し、アセビは55本発根して活着した。2004年11月1日の時点ではアセビの生存率は81.8%であり、オオバアサガラの生存率は100%であり、2樹種ともに活着後の生存率は高かく、シカによる食害はなかった。オオバアサガラとアセビの平均樹高は、それぞれ37.1cmと17.8cmであった。

2004年時にオオバアサガラの親木から種子が落下して発生した個体の調査結果は表-3のとおりである。2004年6月22日時点での発生本数が3640本/haであり、2004年11月1日には3250本/haであった。その平均樹高が24.7cmであった。

以上から、被害跡地へのオオバアサガラとアセビの導入方法は、オオバアサガラの苗木の植栽およびアセビの挿し木が有効であることが明らかになった。さらに、オオバアサガラについては、1本の親木を植栽・育成することによって、親木の周囲に後継樹木の発生を期待することができる。この後継樹木を育成することによって、オオバアサガラを導入することが考えられる。今後、これらの後継樹木の消長については検証していく必要がある。

表 - 1 試験地の概要

試験地	斜面方位	面積(m ²)	傾斜角(度)	備考
アセビ挿し木試験地	E 30° S	15	30	土壌の移動あり
オオバアサガラ植栽試験地	E 30° S	15	30	土壌の移動あり

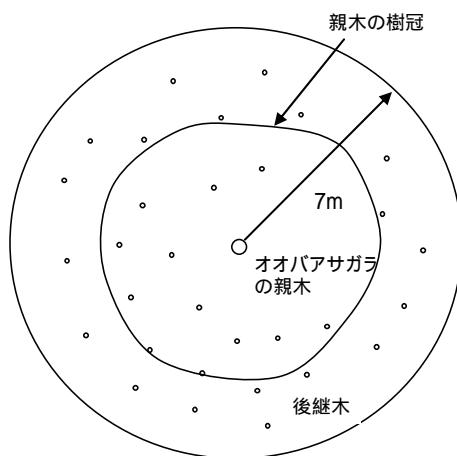


図 - 1 オオバアサガラの親木から発生した後継樹木の調査地模式図

表 - 2 2003年5月に導入したオオバアサガラ・アセビの生存率と平均樹高

2004.11	
オオバアサガラ	アセビ
生存率(%)	100.0
平均樹高(cm)	37.1 ± 18.8
	17.8 ± 6.1

表 - 3 落下した種子から発生したオオバアサガラの個体数と平均樹高

	2004.6	2004.11
個体数(本)	56	50
個体数(本 / ha)	3640	3250
平均樹高(cm)		24.7 ± 22.1



写真 - 1 オオバアサガラの親木



写真 - 2 オオバアサガラ植栽試験地



写真 - 3 アセビ挿し木試験地